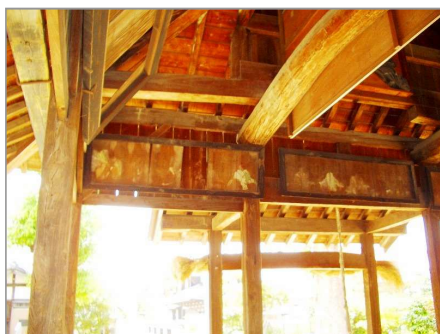
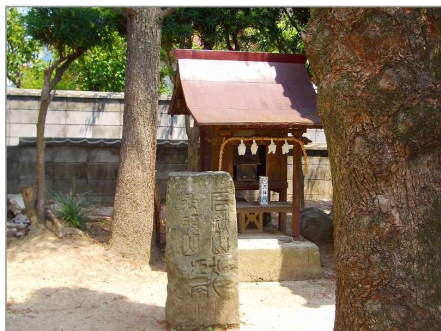




頭王神社。平安時代の貞観年間(859～876)の頃、恵久美は玉生八幡神社の奉幣使であった頭王弥五郎の領地であった。弥五郎は領内の住民により政治をしたので、住民から大変敬われた。



天慶3年(940)国司伊予守源好古の命により、和田三郎兵衛通功が頭王弥五郎の霊を奉斎して、頭王大明神と称した。その後、明治になってから頭王神社と改称された。



境内社として弁天社を安置、その後弁天社内に祇園社を奉斎し、更に二社を合祀して淵の神社と改称、明治3年(1870)素戔神社と改称した。



西沼寺。山号を宝珠山、院号を三宝院、寺号を西沼寺、本山は真言宗豊山派(奈良県長谷寺の末寺)。文龜2年(1502)金蓮寺の末寺の一寺として創建されたが、後に石手寺の末寺として寺門興隆した。



明治初期の住職八束章弘は学識高く、上高柳五松庵の武智五友と親しく、俳人森田雷死久も父の里方の寺院としてよく訪れた。